

3. ケーススタディ

回答が得られた団体の中から、代表的な5団体に対してヒアリング調査を実施した。

3-1 財団法人さっぽろ健康スポーツ財団

所在地:北海道札幌市	設立年:1984年	組織運営ライフサイクル:「成長型」
ボランティア登録者数:165人(2012年3月末現在)		

1. 設立経緯・スポーツボランティア関連活動開始の背景

財団法人さっぽろ健康スポーツ財団は、1984年に札幌市内のスポーツ施設の管理運営を担う「財団法人札幌市スポーツ振興事業団」として設立され、2007年に別団体と統合して現在の財団となった。スポーツボランティア関連の活動を開始した背景として、「札幌市スポーツ振興計画」(2003)のスポーツ振興の基本施策において、ボランティアの活動促進が掲げられたことが契機となっている。現在、財団内では事業課企画係が管轄しており、①ボランティア研修会の開催、②登録ボランティアによるイベント・大会の運営補助、③スポーツボランティア募集情報の発信を行っている。

2. 活動内容

1) ボランティア研修会の開催

2009年度に財団法人笹川スポーツ財団の「SSFスポーツエイド」により、「スポーツボランティア・リーダー養成研修会」を開催し、60人が認定された。2010年8月開催時には、札幌マラソン大会のボランティア参加者を対象に、2010年11月開催時には、コンサドーレ札幌・北海道日本ハムファイターズの試合運営ボランティアを対象に研修会を開催し、2011年度までに合計165人が認定された(表5)。研修はマラソン大会をメインにした内容(心配蘇生・AED実技、給水業務等)を中心に企画されている。認定されたボランティアリーダーの中には、各ボランティアの現場において、中核として活躍しているボランティアも存在している。これらの研修会により、財団とボランティア・他団体との結びつきが生まれ、スポーツボランティアのネットワークが確立した。

表5. ボランティア研修会一覧

	開催日	名称	内容	認定人数
共催	2009年6月14日	スポーツボランティア・リーダー養成研修会 (財団法人 笹川スポーツ財団 主催)	○講義:役割、心得、知識(アイスブレイク) ●実習:スポーツイベントを題材とした実習	60
共催	2009年9月26日	スポーツボランティア・リーダースキルアップ研修 (財団法人 笹川スポーツ財団 主催)	○報告:東京マラソン事例発表、 北海道マラソン大会報告 ●実習:スポーツの現場における救急救命 (心肺蘇生・AED実技)	—
主催	2010年8月8日	スポーツボランティア・リーダー養成研修会	○講義:役割、心得、知識(アイスブレイク) ●実習:スポーツイベントを題材とした実習	50
主催	2010年11月28日	スポーツボランティア・リーダー養成研修会	○講義:役割、心得、知識(アイスブレイク) ●実習:スポーツイベントを題材とした実習	55
協力	2011年7月5日	ボランティア講座 (札幌市ボランティア研修センター主催)	○講義:札幌マラソンにおけるボランティア活動 ●実習:マラソン大会における給水業務	—
主催	2011年11月19日	スポーツボランティア・リーダースキルアップ研修	○講義:札幌市の冬季スポーツ振興の施策、 スポーツ大会における救護 ○報告:雪まつりでのボランティア活動 ●実習:白杖体験 ほか	—

2) 登録ボランティアによるイベント・大会の運営補助

同財団は、札幌マラソン大会と札幌国際スキーマラソン大会の主催団体で、登録ボランティアが大会の運営補助として参加している。札幌マラソンでは登録ボランティアが60人（2011年開催分）の他、公募ボランティア140人、地域スポーツ団体・学校・協賛社からのボランティアを含めた560人が大会を支えている。札幌国際スキーマラソンでは20人（2010年開催分）の登録ボランティアが大会を支えているが、冬のスポーツイベントでは、気候的な条件から安全面を考慮するため、主催者側が広くボランティアを活用するという意識が希薄であり、今後ボランティアの活動拡大に向けての課題となっている。

3) スポーツボランティア募集情報の発信

財団が主催団体となっているイベント・大会を中心に、ボランティア募集情報を発信しており、郵便・FAX・電子メール・ホームページといった媒体を活用している。2011年以降、外部からボランティア募集の協力依頼もあり、多様な規模・種目のイベント・大会のボランティア募集情報を発信している（表6）。

表 6. ボランティア募集情報の発信状況（2012年4月現在）

年度	イベント・大会名	日程
2010年度	2010さっぽろトリムウォーク&トリムラン	2010年6月13日
	第35回札幌マラソン大会	2010年10月3日
	第31回札幌国際スキーマラソン大会	2011年2月13日
2011年度	日刊スポーツ豊平川マラソン 第23回大会	2011年5月5日
	セガサミーカップゴルフトーナメント2011	2011年7月18日～24日
	第36回札幌マラソン大会	2011年10月2日
	第32回札幌国際スキーマラソン大会	2012年2月5日
	2012ISU世界ジュニアスピードスケート選手権 帯広大会	2012年3月2日～4日
	2011/2012ISUジュニアワールドカップスピードスケート	2012年3月9日～11日
2012年度	日刊札幌駅伝 第2回大会	2012年5月4日
	日刊スポーツ豊平川マラソン 第24回大会	2012年5月5日
	富良野トレイルラン2012	2012年6月17日

3. 今後の事業展開・課題

今後の事業展開としては、財団が指定管理業務を行っている市内のスポーツ施設が広くボランティアを受け入れる窓口となり、スポーツボランティア・リーダー養成研修会の認定者をリーダーとし、活動をより組織化することをあげている。また、ボランティアの更なる活動機会の拡大として、市内の規模の小さなスポーツイベントでのボランティア活用をPRしていくことが課題となっている。



札幌マラソン大会（給水所）



リーダー養成研修会（給水所の実習風景）

3-2 特定非営利活動法人 うつくしまスポーツルーターズ

所在地:福島県福島市	設立年:2005年	組織運営ライフサイクル:「維持型」
ボランティア登録者数:150人(2012年1月末現在)		

1. 設立経緯・スポーツボランティア関連活動開始の背景

2004年に福島県で開催された日本スポーツマスターズ大会に登録したボランティアが、2005年に福島県の一事業として会費無料で組織化された。当時は、事務局も行政内にあったが、2007年にNPO法人を取得して事務局も行政から独立し、会費を徴収し始めたことにより登録会員が半減した。しかし、会員は減少したものの活動は安定しており、イベントボランティアの募集情報の発信、リーダー養成研修会の開催、スポーツイベントでのボランティア講習会への講師派遣などを行っている。2011年の春は東日本大震災の影響で活動がほとんどなくなったが、秋ごろからは前年並みに戻ってきた。

2. 活動内容

1) ボランティア研修会の開催

ルーターズでは、年に2回研修会を行っている。1回目は総会開催に合わせた研修会で誰でも参加ができ、2回目はリーダー養成を目的とした研修会である。2012年のリーダー養成研修会では25人が参加し、午前は学識者から「リーダーの心構え、ボランティアの世界的な流れや現状」を、イベントの主催者からは、ボランティアの存在・重要性について講習を行った。午後は、「リーダーのあるべき姿」について、参加者全員によるワークショップが行われた。なお、ルーターズでは、リーダー研修会は実施してもリーダーの認定は行っていない。会員規模が150人とそれほど多くないため、あえて立場を固定しないように配慮していた。

2) 登録ボランティアによるイベント・大会の運営補助・指導・審判

設立当初は、行政関係からの依頼が多かったが、現在は競技団体や新聞社、民間企業からの依頼が増え、ウォーキングやマラソン、プロ野球、なでしこリーグなどのイベントで活動している(表7)。2011年度は震災の影響で活動中止を余儀なくされたが、2010年度は年間55件の依頼に対し約486人が参加していた。イベントの依頼元には活動の報告を義務付けており、毎回の報告が活動の質を上げるための材料として大いに役立っている。

表7. 2012年度ボランティア活動予定(一部抜粋)

No	イベント・大会名	開催	募集人数	依頼元
1	ふくしま再発見まちなかウォーク	4月	15	福島民友新聞社
2	第4回 会津東山温泉新緑マラソン	5月	15	走ろう会/ルーターズ共催
3	福島県障がい者総合体育大会	5月	20	福島県障がい者スポーツ協会
4	うつくしまスポーツキッズ発掘事業	5-6月	40	福島県体育協会
5	2012カヌー・ジャパン・全日本あぶくまカップ	5月	12	福島県カヌー協会
6	プロ野球 東北楽天 vs 千葉ロッテ	6月	25	テレビユー福島

3) スポーツボランティア募集情報の発信

ボランティア募集情報の発信には、郵便・電話・FAX・電子メール・ホームページ・団体の機関誌・行政の広報誌といった多様な媒体を活用している。また、ボランティアがスケジュールを管理しやすいようにと、チェック欄をもうけた「ボランティア募集イベントカレンダー」も作成・配布している。

4) ボランティア講習会等への講師派遣

年間に2~3回、他の組織からの講演依頼があり応じている。「いわきサンシャインマラソンボランティア講習会」といった県内イベントを対象としたものもあれば、「秋田市スポーツボランティア講習会」「日本スポーツボランティア学会」など、活動は多岐にわたる。

3. 運営上の工夫

- ルーターズでは、登録した会員（年会費：運営会員1万円、活動会員・賛助会員2千円）には、会員証とユニフォーム（水色の帽子とジャンパー）を提供している。ユニフォームは活動中に目立つこともあり、会員のアイデンティティを高めるとともに、他からの認知度を上げる効果もある。
- 「スポーツボランティア・ハンドブック」を作成し、活動の流れや心構え、主な活動場所の情報等をわかりやすくまとめている。
- 特典として、アスリートとの懇親会やスポーツ観戦チケットの提供なども行っている。
- 毎年数名ずつ、活動表彰も行っている。2011年度は「活動参加No.1」として、男女の部、最年長活動賞、新人賞として、6人のボランティアに記念品を贈呈した。
- 事務所の賃貸料（月4万円）を抑えるために、県の水泳連盟と同居して、半額負担で節約をしている。
- 162万円の収入のうち、県のスポーツ振興基金から100万円、会費収入が56万6千円、共催事業による委託収入が5万4千円となっており、現在、収入確保のためにも「共催事業」を増やす努力をしている（表7参照）。共催事業は、企画段階から関わることができ、よりボランティア活動を円滑にすることができる。一方で、イベント主催者のルーターズの活動に対する信頼の高さの表れともいえる。



4. 今後の事業展開・課題

会員の高齢化と世代交代、会員増が課題といえる。なかなか会員増にはならないが、少しずつ世代交代はできてきている。組織の運営会員である理事等が勧誘してくる人材の質が高く、全体的に会員の質が高まってきている。共催事業を増やし、財政的に安定した運営を図るのも今後の課題である。



県の水泳連盟と同居する事務所

3-3 埼玉県スポーツボランティア

所在地:埼玉県さいたま市	活動開始年:2007年	組織運営ライフサイクル:「成長型」
ボランティア登録者数:5,346人(2012年1月末現在)		

1. 設立経緯・スポーツボランティア関連活動開始の背景

2004年の第59回国民体育大会(彩の国まごころ国体)時に集まったボランティア800人のうち、本人承諾の得られた465人がスポーツボランティアとして埼玉県スポーツリーダーバンクに登録をした。2007年にスポーツリーダーバンクから独立し、埼玉県スポーツボランティアを立ち上げた。2011年度から(財)埼玉県体育協会に運営を委託した。1999～2010年の埼玉県スポーツ振興計画(彩の国スポーツプラン2010)において、「スポーツボランティアとして5千人が登録することを目標とします」という数値目標を掲げ、現在、5,346人の会員を有し目標を達成している。活動としては、イベントボランティアの募集情報の発信のみを行っている。

2. 活動内容

1) スポーツボランティア募集情報の発信

埼玉県内で実施されているイベント・大会を中心に、ボランティア募集情報を発信している(表8)。県のホームページでの告知のほか、登録者へのメールニュースの配信といった、ホームページと電子メールの媒体を活用している。2009年度は20件(のべ152人)、2010年度は29件(のべ264人)、2011年度は15件でのべ186人のボランティアが活動している。

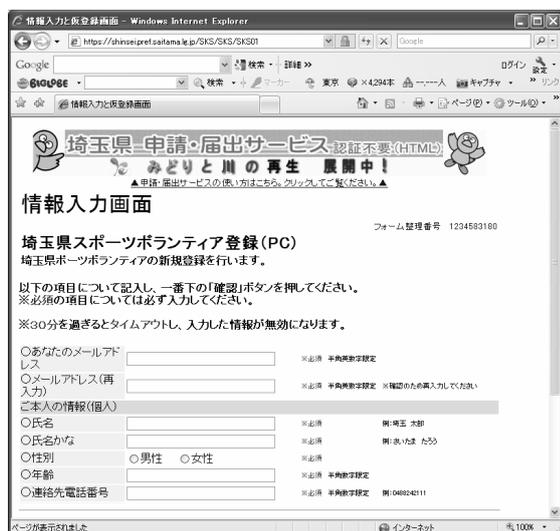
表8. ボランティア募集情報の発信状況(2011年度)

No	イベント・大会名	開催	募集人数	活動人数	依頼元
1	第21回 幸手さくらマラソン大会	4月	10	5	市体協
2	第28回 行田市鉄剣マラソン大会	4月	50	1	実行委員会
3	第24回 埼玉マスターズ陸上競技記録会	5月	20	23	競技団体
4	スポーツエアロビック2011埼玉オープン	5月	8	6	競技団体
5	11彩の国トライアスロン北川辺大会	6月	30	12	競技団体
6	第26回 埼玉マスターズ陸上競技記録会	9月	20	17	競技団体
7	全国チャレンジKIDSトライアスロン大会	9月	30	6	競技団体
8	第31回 杉戸町町民体育祭	10月	10	3	自治体
9	埼玉サイクリングフェスティバル	10月	30	29	自治体
10	第52・22回 東日本実業団対抗駅伝・女子駅伝	11月	100	47	自治体
11	第16回 加須こいのぼりマラソン大会	12月	50	8	実行委員会
12	第30回 東部地区高等学校駅伝競走大会	12月	20	15	高体連
13	第79回 埼玉県駅伝競走大会	1月	20	13	実行委員会
14	第28回 杉戸町新春マラソン大会	1月	10	1	自治体
15	さいたまシティマラソン	3月	1,000	不明	実行委員会
合計			408	186	

本事業は、2011年度から県が(財)埼玉県体育協会に約2,100万円で運営を委託している「生涯スポーツ・相談事業」のひとつとして実施しており、他に「スポーツリーダーバンクの運営」「生涯スポーツリーダー研修」「スポーツ医事相談」「スポーツ医学研修会」「運動競技者体力測定」がある。現在も活動の告知は、県のホームページ上で行っているが、依頼者や登録者との手続きは全て体育協会が行っている。

3. 運営上の工夫

埼玉県では、ボランティア登録の方法に工夫がなされており、県のホームページ上から登録が可能となっている。携帯電話を使ってQRコードからも容易に登録ができ、その効果もあって登録者5千人の目標が達成できた。ただ、携帯電話からの登録の場合、名前とメールアドレスしかわからず、性別や年齢の把握が出来ない点が欠点であった。登録は中学生以上であることを条件としている。



ホームページ上の登録画面



携帯電話登録用のQRコード

4. 今後の事業展開・課題

今後の事業展開としては、県内の市区町村の自治体から、ボランティア募集情報を収集する努力・仕組みを整え、より多くの活動機会の提供を行っていくことをあげている。また、次期作成の県のスポーツ振興計画においてもスポーツボランティアの振興について明文化される予定だが、今後は現在保有する約5千人のボランティア登録者が、実際に活動に参加する機会を提供し、且つ一人ひとりの質の向上を図っていくことが課題となっている。その方策のひとつとして、ボランティアリーダーの養成も視野にしている。2012年度の県体育協会の事業として、スポーツボランティアバンクの運営と併せて、運営委員会の開催も予定している。埼玉県スポーツボランティアの量から質への転換が期待される場所である。

3-4 公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本

所在地:東京都港区	設立年:1994年	組織運営ライフサイクル:「成長型」
ボランティア登録者数:17,102人(2012年1月末現在)		

1. 設立経緯・スポーツボランティア関連活動開始の背景

アメリカで始まった、知的障害のある人たちのスポーツトレーニングとその成果の発表の場となる競技会を提供する“スペシャルオリンピックス”の活動が日本にも伝わり、1994年に国際本部の認証を受けて「スペシャルオリンピックス日本」が発足した。スペシャルオリンピックス日本の事務局は東京にあり普及活動を主としており、日常の活動の実践は全国47都道府県にある地区組織が担っている。なお、この地区組織は独立した組織／団体として活動しており、事務局からの金銭的な支援はほとんどないのが特徴である。

現在、約7,400人のアスリート（競技に取り組む知的障害のある人達のこと）を約17,000人のボランティアがサポートしている。スペシャルオリンピックス日本の事務局に直接登録しているスポーツボランティアは170人ほどで、ほとんどのボランティアが各地区組織に所属して活動している。

2. 活動内容

1) ボランティアの種類

ボランティアには「スポーツトレーニングボランティア」「大会・イベントボランティア」「事務局ボランティア」の3種類がある（表9）。概要やボランティア数は以下のとおりである。

表9. ボランティア研修会一覧

ボランティアの種類・概要	ボランティア数
①スポーツトレーニングボランティア	
各地区組織で日常的に行われている活動のボランティア ◇指導するコーチ ◇一緒に活動に参加するボランティア ◇運営を支えるボランティア	◆事務局登録ボランティア:172名 ◇認定コーチ:150名 （内訳:スポーツトレーナー:50名、ローカルトレーナー:60名 ローカルトレーナー候補:40名） ◇ナショナルトレーナー:22名 ◆各地区組織登録ボランティア:13,700名
②大会・イベントボランティア	
4年に一度の夏季・冬季全国大会、チャリティイベント、各地区組織が主催する競技会やイベントで活動するボランティア。アスリートの誘導や競技補助、運営をサポートする。	◆全国大会:約2,500名 大会ごとに募集されるが登録制度は無い 大会ごとに名簿で管理するのみ
③事務局ボランティア	
事務局で、ニュースレターや資料の整理・送付など仕事をお手伝いするボランティア	◆事務局・各地区組織:若干名

2) ボランティア指導者への研修会の開催

日常的に各地区組織の現場で指導等を行う「スポーツトレーニングボランティア」に対しては、コーチクリニックや認定コーチ研修会を実施している。コーチクリニックは、日

常プログラムで指導コーチとして参加する前に受講する研修会で、研修内容は①スペシャルオリンピックスの概要、②アスリート理解、③当該競技の講義と実技を行う。対象となる競技種目は現在 22 種目ある（表 10）。開催は、47 地区組織の開催要請を受けてスペシャルオリンピックス日本事務局から講師派遣が行われる。

なお、コーチクリニックを受講し、その競技を 10 時間（5 回）以上コーチとして指導した場合は、その競技の認定コーチとして資格が得られる。

表 10. スペシャルオリンピックス対象競技種目一覧

夏季競技:15競技	冬季競技:7競技
水泳競技、陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボッチャ、ボウリング、馬術、サッカー、ゴルフ、体操競技、ソフトボール、卓球、テニス、バレーボール、自転車競技	アルペンスキー、クロスカントリースキー、スノーボード、スノーシューイング、ショートトラックスピードスケート、フィギュアスケート、フロアホッケー

3. 運営上の工夫

全体の収入（1 億 8,400 万円）に占める補助金の割合が 20%（アテネ五輪後から、国庫補助金から 1,950 万円支給）、寄付金の割合が 64%で両方合わせて 8 割を超えている。ボランティアに関する予算は 350 万円、その内の 75.5%はスポーツ振興くじの助成金でまかっている。

ボランティアの活動に対するインセンティブ（物品や行事の特典）は、全く準備していないが、多くのボランティアに活動を支えられている。

4. 今後の事業展開・課題

今後の課題は、「大会・イベントボランティア」の参加者を、いかに各地区組織の日常の活動に関わるボランティアに移行するための働きかけができるかということである。現在、大会ごとのボランティア登録者の情報は、該当大会の終了とともに抹消されることとなり、ボランティア参加者の情報が蓄積されておらず、スペシャルオリンピックス日本としての、ボランティア登録制度の検討が必要な時期にきている。



スペシャルオリンピックス日本の事務局

3-5 特定非営利活動法人 成田空港ボランティア・スカイレッツ

所在地:千葉県船橋市	設立年:1998年	組織運営ライフサイクル:「成長型」
ボランティア登録者数:52人(2012年1月末現在)		

1. 設立経緯・スポーツボランティア関連活動開始の背景

1998年の長野冬季オリンピックに登録した千葉県在住のボランティア登録者がスカイレッツを結成。成田空港を活動拠点とし、選手や関係者が無事に次の目的地に移動できるようにサポートをしている。2010年に法人格を取得し、世界大会などのスポーツイベントのほか、APEC(アジア太平洋経済協力)首脳会議などのスポーツ以外の国際会議時でも活動をしている。また最近では、イベント主催者からの依頼で羽田空港でも活動を行っている。長野冬季オリンピックを機に結成された、空港での送迎活動に特化したボランティア団体である。

2. 活動内容

1) 例会(勉強会)および空港見学会の開催

月に1回、毎月第4日曜日の午後に、例会という名の勉強会を実施している。2011年12月には、5大陸に住み99カ国を訪問した元外交官の中村義博氏を招いて特別講演会も開催した。また、活動拠点となっている空港の見学会も、毎年1回は空港の協力を得て実施している。空港内は意外とレイアウトや表示が頻繁に変更になっており、且つ到着ロビーは普段利用時の滞在時間が短いために認識されていない部分が多いことから、ボランティア活動をスムーズに行うために、成田空港と羽田空港(最近では羽田空港着の国際便に対応した活動依頼もあるため)で必ず開催している。

2) イベント・大会の運営補助(空港での活動が中心)

スカイレッツの場合、イベント・大会の運営補助といっても、活動の場所は空港内が中心である。1997年の長野オリンピックプレ大会での選手団・役員の送迎からはじまり、2001年第6回秋田ワールドゲームズ(成田空港と東京駅での選手団送迎)、2002年日韓サッカーワールドカップ(空港利用者への案内および関係者の送迎)など、年間平均2~3件の世界大会をサポートしている(表11)。

成田空港を運営している成田国際空港株式会社からも信頼を得ており、2003年の第5回アジア冬季競技大会(青森)と2005年のスペシャルオリンピックス2005年冬季世界大会(長野)時には、入国のサポートをするため、入国審査が行われるイミグレーション(入国審査カウンター)や税関検査のサポート活動を実施した実績もある。



2005年：スペシャルオリンピックス（長野）



2003年：アジア冬季競技大会（青森）

最近では、スポーツ以外に外務省関係から APEC(アジア太平洋経済協力)首脳会議、関東の大学から留学生の受入のサポート依頼も来るようになった。スポーツイベントに関しては、競技団体からの直接の依頼と旅行代理店からの場合があるが、スカイレッツでは、1日あたり 2,500 円程度の交通費実費の負担を主催者（依頼主）にお願いしている。

表 11. 空港での活動実績（2010年～2011年）

年月	イベント・大会名	内容
2011年9月	トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会	選手団・関係者の出迎え・見送り
2010年11月	APEC(アジア太平洋経済協力) JAPAN 2010	インフォメーションデスク・サポート業務
2010年10月	イオンカップ世界新体操クラブ選手権大会	選手団・関係者アテンド業務
2010年9月	世界柔道選手権2010東京大会	選手団・関係者の出迎え
2010年6月	体操 JAPAN CUP 2010	選手団・関係者の出迎え

※2011年は東日本大震災の影響を受け、国内で開催予定の世界大会が中止となり活動が減少。

3. 運営上の工夫

スカイレッツでは、空港での活動に必要な知識や会話集等を「ボランティアガイド」としてまとめ、会員はもちろんのこと、新規会員の参画を促す資料としても有効に活用している。年間の収支予算は約 35 万円（年会費・入会金 3 割、事業収入 4 割、雑収入・寄付金等 3 割）。活動費用は依頼者負担のため、活動の増減が団体の運営にあまり影響を及ぼさないのも特徴である。



4. 今後の事業展開・課題

今後の事業展開としては、活動の依頼が多様になってきているが、成田空港での活動とスポーツイベントにこだわり活動を続けていきたい。そのためにも、依頼件数が増えるように、スポーツ関係者に対して、スカイレッツの存在をいかに周知するかが課題となっている。会員（現在 52 人）については、現役時代に語学力を仕事で活用していた男性の入会が増えており、今後のさらなる会員の増加が期待されている。